

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000062		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「おおぞら」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥429-6		
自己評価作成日	令和元年10月18日	評価結果市町村受理日	令和元年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JievsvoCd=2191000062-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和元年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境で、地域の人々と交流を深めながら、地域の一人としての意識を持ち、日々の生活のなかで生きがいを持っていただくことで楽しく、心穏やかに過ごしていただくような空間を提供できるよう取り組んでいる。同法人のグループホーム、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅支援事業所と連携を取りながら、利用者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。また、母体が病院であることから24時間医療と連携した支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人社団福寿会コスモス苑は、多種多様な福祉サービス事業所を運営し、地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう総合的な支援に取り組んでいる。また、利用者の食事作りは、食材購入を地産地消に努め、地域住民との関わりを大切にしている。地域住民の働く場所や雇用の拡大についても、行政と定期的に話し合い、介護の仕事について、積極的に啓発活動を行っている。代表は福祉職としての専門性を身に着ける為の研修受講や資格取得を奨励し、職員のステップアップをサポートしながら、利用者と家族の安心につなげ、より良い利用者サービスの提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 各施設に理念が掲示され、常に目のつく場所にある。 理念を共有し実践している。 	理念は「見守ります・見逃しません・笑顔を引き出します」の文言を掲げ、職員の目につきやすい場所に掲示している。また、給料明細袋にも明記して理念の共有を図り、利用者が住み慣れた地域と関わりながら、笑顔で暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事等を施設の敷地内で行うなど交流する機会を設けている。 日常的に出かける機会もある。 地域の食材を使った食事の提供をしている。 	利用者の食事作りでは、地域の農家と連携を図り、食材購入は、地産地消に努めている。地域行事の際には、事業所を解放して地域住民と交流をしたり、幼稚園児との交流も定期的に行っている。また、地元住民の雇用も積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> この知識を地域の方より相談があれば、説明ができるようにしている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 行事を行い家族会を開き気軽に意見交換ができる場を設けている。 運営推進会議にはご家族様も参加され、意見をいただいている。 	年3回運営推進会議を開催し、行政、自治会代表、民生委員、利用者と家族の参加を得ている。取り組み状況や今後の計画などで意見交換を行っている。家族からは、入居してからの利用者の変化について、感謝の言葉が聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 介護相談員の訪問が定期的であり、連絡を取り合い協力している。 他の棟と連携をとったり協力関係を築くようにしている。 	行政にホームの現状を報告し、日々、困難事例も相談している。運営推進会議でも、地域高齢者の現状報告や参加者からの質問に答えてもらう等の協力を得ている。行政主催の研修会には積極的に参加し、協力関係を築きながら、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束は理解しているがやむを得ない時は、ご家族様の了解を得、必要最低限にして記録を残している。 行動制限のないよう、中庭へ自由に行けるようにしている。 	身体拘束をしないケアに努め、止むを得ない場合は、工夫しながら最善の支援方法を話し合っている。また、拘束や虐待防止についての外部研修に参加し、内容を全職員で共有している。転倒・転落等の事故が予測される場合も、利用者の行動を制限することなく、職員が寄り添いながら、自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止の研修会参加した人は、ケア会議等で報告をして全職員が知識を学ぶ機会を設けている。職員は利用者様の立場になって安心して生活していただけるように努めている。 		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されていた方他施設で過去に入所してみえたので、今後このような知識が必要になってくると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ケアマネがご家族様に施設見学などしていただき、安心をしていただけるように説明して、十分な説明をして理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族様、利用者様と面談する機会を設け、希望や要望を聞いている。 ・利用者様の声に耳を傾け、日常会話の中からくみとるようにしている	家族の訪問時には、職員がゆとりを持って対応し、意見や要望を聞いている。家族から食事内容について質問があり、現在は、利用者の状態などの報告を兼ねて、定期的に献立表を家族に送付している。	来訪者から、ホームの表示が分かり難いとの声があり、現在検討中である。分かりやすい目印や看板等の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定期的に会議を行い要望や提案を話し合う機会を設けている 苑全体の責任者会議でも検討している。	管理者も日常的に現場に従事し、職員の意見や要望を業務の中で聞いている。会議の際には、職員と意見交換を行い、法人全体で、職員のスキルアップの為の研修受講や資格取得をサポートし、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等の参加が出来る機会があり、それによって給与水準も考慮している。職員の向上心をもって働けるような職場環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに対して、研修や資格取得の情報を常に提供し、スキルアップできるようにサポートをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や同業者との交流のための講演会などに参加をして、お互いの施設の活動を参考にサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活を知り、ご本人様が困っていることや、不安なことなど日常会話の中で聞き安心して生活していただけるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はなるべく家族様に訪問していただき、お互いに信頼関係ができるように努めている。ご家族様には明るく挨拶し、困っていること、不安なことがあれば相談にのり信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に家族の方、ご本人様に対して不安にならないように対応している。また相談等があれば分かり易く伝え、他のサービスも利用できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに人と人とのつながりを確認していくものだと考え実行している。人生の先輩として上から目線にならないように、言葉使いには気をつけながら共に作業してよい関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族にお便りを出して、本人様の苑での生活状況をお知らせしている。又、家族様に連絡を取り合い、時には外出、外泊等のサービスを利用していただき、家族の絆を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様と共に外出されたり友人の来苑が自由にできている ・なじみの美容院など行ってもらっている 	家族や知人が、隣接する病院への受診時に、ホーム立ち寄りこともあり、馴染みの関係が継続できている。同法人施設の利用者とも行事で交流したり、ユニット間の交流も日常的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで利用者様同士が一緒に過ごしていただき、良い関係を持てるようにしている。時には穏やかであり、時には認知症の状態のトラブルがある場合にも職員が間に入り関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された利用者様やご家族の方に対しても出遭えれば声をかけて変わらぬ関係を保っている。また、入院された方は見舞いに行き、ご家族様に対しても相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・施設利用に至るまでの情報を収集し生活歴を考慮し状況やしぐさから思いや意向をくみとり支援している	契約時の資料やアセスメントを参考に、利用者の思いや意向を確認し、職員間で話し合っている。実際は事前情報と異なる場合もあり、日々のケアを通じて把握するよう努めている。困難な場合は、家族からの情報と職員の経験を活かし、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境などの情報をもとに本人からもお話を聞き、把握するように努めている。また、家族様との信頼関係やご本人様とのコミュニケーションは大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に看護職員が隣接している医院と連携をとり、利用者様の健康状態や心身状態を把握している。全職員が申し送りやケア会議等で情報を共有し対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケア会議にて課題のある利用者様を提案し、それぞれの意見を反映している ・本人、ご家族様から伺い生活の中で支援、見直しなど考えていく	サービス担当者会議は、できる限り家族の訪問時に合わせて開催し、介護計画についての意見や要望を聞いている。参加が困難な場合は、ケアマネジャーが家族のもとに出向き、意見交換をしながら検討を重ね、介護計画を作成している。見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士申し送りにて情報を共有している。また、ケア会議でも職員間で話し合い、見逃さないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の方とグループホームの枠に収まらない一人ひとりご本人に合わせた支援を行っている。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入をして利用者様に楽しんでいただき、馴染みの美容院や、買い物、レジャー施設などの遠足など様々な外出支援に心がけ、暮らしの支えになるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、ご家族様の意向に沿ってかかりつけ医に受診していただく ・緊急時の対応には、ご家族様に意見を求め対応している	契約時に、かかりつけ医について、事業所の方針を説明し、利用者・家族が選択している。現在、ほとんどの利用者が法人の医師をかかりつけ医としている。法人の病院がホームに隣接しており、日常的に医師の訪問を受けることができ、適切な医療体制で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護で日頃気がついたことは看護師に報告して相談している。受診が必要な時は指示を受けて主治医のと連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人ご家族の承諾を得て基本情報や医療に関する情報提供を行っている。その他の情報は病院に行き、看護師、医師に情報提供をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重症化されたときや終末期に入居された場合、医師やご家族様と話し合いを行っている ・経過観察を行い体調の変化があればご家族様に連絡し対応している。	契約時に、重度化や終末期の対応について、利用者・家族に説明し同意を得ている。状態に変化があった場合は、早い段階で家族と関係者が話し合い、医師の意見を聞きながら、家族の意向を確認し、終末期ケアにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には訓練はしていないが、マニュアルがあるので、実践に対応できるように心がけている。 状況によっては医師や看護師の指示をもらい対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災・水害の避難訓練を地域の方、自治会の方と共に定期的実施し、利用者様にも参加していただいている。職員全員が避難経路を確認している。	年2回、自治会や近隣の協力を得ながら、夜間想定を含めた火災訓練を行っている。今回は、町内の住民参加があり、ホームの見学会を併せて実施し、活動報告も行っている。備蓄を完備し、水害や地震についても対策を話し合っている。	ホームの2階は、「ショートステイ」事業所があり、次回の火災訓練は、合同での実施を計画中である。両事業所の利用者家族の協力を得て、安全に合同訓練が実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊厳、プライバシーに気を付けて、心掛けた言葉かけ言葉かけの対応を意識している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、日々、利用者が自信を持って笑顔で暮らせるよう支援している。また、職員は「優しさと思いやり」を合言葉に、声かけの際は、ゆっくりと丁寧心がけ、プライバシーにも細心の注意を払って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを表現できるような場を作り、自己決定が出来るように支援している。 日常の会話や仕草、表現等で察することが大切でその意味でのコミュニケーションや観察をする能力がとわれる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、尊重し、希望を聞きながら日々の生活を思い思いに過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、髭剃り、散髪など、身だしなみに心がけその人の好みや希望に沿って支援している。また、定期的に美容院に行ったりしていただき、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・希望を伺い一人ひとりの食事を提供している。栄養士によるカロリーも計算もされている。また、利用者様の出来る範囲でテーブル拭きや食器洗いも手伝っている。	食事作りについては、地元の旬の食材を使い、栄養士と調理師が工夫しながら、個々の嚥下状態に配慮した食事形態で提供している。利用者が育てた野菜も使いながら、できる範囲で準備に関わり、音楽を聴きながら、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、調理師と共に日々利用者様の状態に応じ、食事量、形態を利用者様に合わせた食事にして看護師、医師の指示に応じながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを習慣にして、自分のできる利用者様はやっていただいている。歯科衛生士の職員からのアドバイスを得ながら利用者様に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科医院の訪問による指導も実施している。		

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人一人に合った排泄介助を行っている。また記録をして情報を共有し声掛けなど行い自立できるように支援している。	トイレでの排泄が習慣になるよう、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら、声かけと誘導、見守りを行っている。布パンツの利用者もある。夜間は、安全の為にポータブルトイレを使う利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	フロアを歩いていただいたり、その人に合った運動をしている。特に困難な方は排泄パターンを把握し、食事量などチェックして栄養士の支持等もらいながら、生活習慣に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・全体の入浴日は決まっているが、一人一人の状態に合わせて入浴ができるようにしている。 ・入浴を拒否される方は声掛けや日にちを変更して柔軟に対応している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望に応じながら、柔軟に対応している。重度化した利用者も機械浴で安心・安全に入浴を楽しむことができる。個浴もあり、職員とゆっくり会話を楽しみながら入浴する利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は休んでいただき、一人ひとりに合わせた生活習慣を把握している。安心して寝ていただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの薬を理解して、服薬の症状の変化に注意し看護師と連携をとっている。職員は間違えてしまわないよう常に確認し、医師に相談、指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯を干したり、たたんだり、一人ひとりに合った仕事をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日、体調の良い日は、外気よく散歩に行けるよう支援している。 ・家に帰りたいと希望される方は家族様に連絡して対応している。地域の方の協力に関しては今後の課題でもある。	天候や利用者の状態を見ながら、できる限り外出できるよう努めている。散歩が可能な利用者は、職員と共に周辺を散策している。また、広い庭で日光浴をしながら、お茶やおやつなどを楽しめる機会も設けている。	

岐阜県 コスモス苑「おおぞら」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、トラブル防止のため苑で管理している。必要な場合は職員が同行し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯や事務所の電話など、その人に合った形で自由に電話を使っただき、家族との関係が途切れないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに飾りを変え、季節を感じていただけるように工夫している。 ・共有しているフロアーは、各行事の写真を展示して明るい空間づくりをしている。 	共用空間は、車椅子の利用者が、安心して往来ができる広さがあり、テラスでは、中庭の木や花壇の花を眺めながら、のんびりと過ごすことができる。フロアーには、行事の写真を掲示したり、利用者と職員の共同作品を飾っている。作品制作中の楽しさや完成時の達成感などを話題にしながら、次の楽しみにつなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭のテラスや好みの場所に座られる場所があるので気の合う同士がお話をされたり、1人になりたいときは部屋で休まれたりと思いいの時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合わせた配置や飾りなど心掛けている。 ・行動されるスペースを確保して安全にも配慮して生活をしていただいている。 	居室には、電動ベッドや空気清浄機能のあるエアコンが設置されている。また、日用品を整理整頓しやすい収納棚がある。利用者が自分の部屋が分かりやすいよう、居室の表札に工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送ってもらう為に手すりをつけたり、トイレの表示など、利用者様が混乱して不安にならないように工夫をしている。		